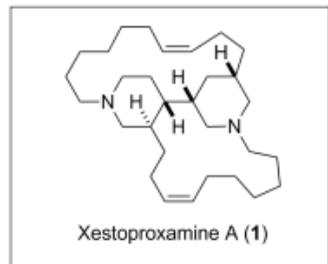


29K-am07

ゼストプロキサミン A の合成研究

○河辺 佑介¹, 福田 優亮¹, 稲井 誠¹, 浅川 倫宏¹, 江木 正浩¹, 菅 敏幸¹ (¹静岡県大薬)

【目的】シクラミン類は細胞毒性を示すことから注目を集める 4 環性のアルカロイドであり、2つのマクロ環の中心に 3-4 位で連結したビスピペリジン骨格をもつ。今回我々は、*trans-syn-cis* 配置のビスピペリジン骨格の高立体選択的な構築を目指し、ゼストプロキサミン A (1) の合成研究に着手した。



【方法および結果】ビスラクトン骨格をビスピペリジン骨格へ導く合成戦略を考案し、2, 3 を出発原料にビスラクトン骨格を構築することとした。すなわち、2 に対する 3 のマイケル付加反応にて 4 とした後、種々の変換を行うことで高立体選択的に 5 を得た。続いて、一方のラクトンを選択的に開環した 6 へと導いた。今後は、光延反応によってマクロ環を順次構築した 8 へと変換し、ビスピペリジン骨格を構築することで、1 の全合成を達成する予定である。

